

## 第5回まちづくり活動発表会グループワーク

(竜泉・里山クラブ グループ)

日時：2017年1月28日

場所：SAYAKA ホール 2階大会議室

参加者：山下輝紀・伊月幸二郎（竜泉・里山クラブ）、向井章（まちづくり研究会）

中谷勝計（熟年いきいき事業実行委員会）、中野文子・清水美江（食生活改善推進協議会）、浅野斉（南中円卓会議）、森山末雄（三中円卓会議）、小松茂美（第12期まち大Cコース）、岡田卓二（狭山の福池自然づくりの会）

コーディネーター；支援センター／日野

### 【グループワーク内容】

－竜泉・里山クラブの活動（発表）についての以下の質疑応答を行った－

Q1 「天野街道と陶器山の自然を守る会」で対策しているナラ枯れについて、竜泉地区では大丈夫なのか。ナラ枯れはないのか。

A1 目下影響はない模様。みかんの樹の消毒効果があるのか、活動をしている地域・土地がいいのか。（でも知らないだけでナラ枯れ自体は起こっているのかもしれない。）

Q2 活動メンバーはどのように募集しているのか。

A2 活動記事を金剛コミュニティ誌に掲載したことでメンバーが増えたことがある。メンバーを募るのはやっぱり口コミが一番効果的と思う。

Q3 里山活動は年配の人でもできるのか。

A3 メンバーがそれぞれできることをしている。いつ来ていつ帰ってもいい。しゃべるだけで何も作業をしないで帰ってもいい。（最高齢の人は84歳、大人の遊び場）

Q4 なぜ富田林の竜泉地区で活動しているのか。大阪狭山市でも大野地区とか活動の場あると思うが。

A4 当初クラブ発足時に竜泉地区に知り合いがいたこと、また条件等も相談しやすかった。（大阪狭山でも立ち上げたらいいなどの意見あり）活動の初めには、知り合い・きっかけといった人とのつながりが大事である。

Q5 若い人の入会が待たれる（必要と思われる）が、若い人を巻き込む方法はないか。

A5 いろいろなツールを使って活動の魅力をPRする、訴えるのが一番ではないか。自然に触れること、ミカンやタケノコ、シイタケの収穫もある、竹炭をつくるといった魅力が一杯あることを宣伝したらいい。情報発信が必要。

Q6 活動するための資材にお金が必要だが、どのように工面しているのか。

A6 会員より年会費3,000円を徴収している。このほかにみかんや竹炭や竹酢液等の販売収入で活動資金を捻出している。

以上